

当院におけるシャントトラブルスコアリングシート（**STS** シート）改訂の取り組み

医療法人財団 はまゆう会新王子病院

○船津朋子 白石あかね 横田千夏 大谷麻岐 渡辺千代子

瀬川賀世子 惣明靖元 宮崎三枝子 箴島明彦

【目的】バスキュラーアクセス（以下 **VA**）の狭窄・閉塞リスクを明示し、個別性のある **STS** シートを作成し、観察力や意識の向上を図る

【方法】狭窄指標・**VA** の特徴・最終 **PTA** 日・エコー写真・**STS** 項目を記載し、患者別に **VA** の狭窄・閉塞のリスクを表示した改訂 **STS** シートを作成。評価間隔はリスク別に設定。1 か月間使用後にスタッフへアンケート調査を実施した。

【結果】アンケートの結果、改訂 **STS** シート使用後 **95%** がハイリスク患者が分かるようになり、狭窄指標は **85%** が理解できるようになった。しかし **VA** に関心が強まった一方、評価の記載漏れがあったという意見もあった。

【考察】改訂 **STS** シートは **VA** の観察・管理の意識向上につながり有用で、情報を共有する手段として意義があった。一方で **VA** に対し、まだ意識が十分でないといった印象があった。評価間隔をリスク別に変更したことや、穿刺前の慌ただしい時間に評価・記録するため、記載漏れにつながったと考える。

【まとめ】**STS** シートを改訂したことで、スタッフの **VA** に対する意識の向上が図れた。記載漏れの課題もあり、**VA** の継続的な教育を行うとともに運用方法は今後検討が必要である。